中尾所長が講演致しました

白石城復元から30年 歴史フォーラム

江戸期の変遷 学ぶ

「地域や景観の核に」

白石市の白石城が復元から30年を迎えたのを機に、江戸時代の城の変遷や復元までの道のりを学ぶ上広歴史文化フォーラム（白石市など主催）が、市中央公民館であった。約130人の聴衆は地域の財産である城への理解を深めた。

山形大研究員の中尾七重氏(68)が「白石城天守 変貌の歴史」と題して講演した。

城の外観や構造を記した江戸時代の絵図は幕府に提出する公文書の性格があったと紹介し、「白石城天守は絵図や修理の記録といった資料が充実している。現代までに研究が進み、理解が深まっている」と説明した。

白石城の歴史を学んだフォーラム

石垣の修理記録が詳細な一方で、天守造成の移り変わりに関する記載が乏しい点については「記録が残る行政案件と、記録が残らない将軍主導の政治案件という差があったのではないか」と解説。白石城が国内で最も優れた木造復元であると評価し、「地域や景観の核になっている」とたたえた。

市職員として30年前の復元事業に携わった市歴史文化アドバイザー菊地正昭氏(67)も講演。3週間足らずで17万人が来場したオープン当時を振り返り、「1、2時間待ちは当たり前。東京ディズニーランドよりも混んでいると言われた」と懐かしそうに語った。フォーラムは13日にあった。

（剣持雄治）

掲載日:2025年12月19日,面名:M406X0,記事ID:K2025121900000013300

(C)河北新報社

記事掲載承認済み

講演をおこなう中尾七重所長

会場の聴衆の皆さん

12 月 13 日、白石市教育委員会から招聘されて、阿部和建築文化研究所中尾七重所長が「白石城天守変遷の歴史」と題して 90 分におよぶ講演を致しました。当日は穏やかな好天に恵まれ、120 人以上の市民が聴講に訪れました。

建築学会発表の専門的学説を含む内容にもかかわらず、聴衆の皆さんは熱心に耳を傾けておられました。質疑応答では鋭い質問も発せられ、会場はアカデミックな雰囲気に包まれていました。

白石市作製の告知チラシ